

3. トキソプラズマ

- i) 間接赤血球凝集反応 (IHA) による種々の解析が行われた。(松本)
- ii) 現在行いうる種々の抗体検査法の比較が行われ、色素試験が最も信頼できること、これに代りうるものとして ELISA 法が有力であることが示唆された。(亀井)
- iii) 間接ラテックス凝集反応 (ILA) は非特異的に IgM と反応すること、また HBe 抗原とも反応することが示された。(沼崎)
- iv) IHA あるいは ILA 抗体上昇者から出産された児にまったく異常が認められなかった。(沼崎)

考 察

1. ヘルペスウイルス

ヘルペスウイルスの感染年齢が年々高くなっているため、抗体陰性の妊婦が増加しつつある。その結果、新生児ヘルペスの増加が危惧されるわけであるが、川名らが新生児ヘルペスの研究に着手したのは時宜を得たものである。また、この研究は吉野らの開発した簡便な分離同定法により一層促進されるものと期待される。

2. サイトメガロウイルス

不顕性子宮内感染、妊婦の初感染が正確な数字で示されたことはわが国における CMV 感染の実態を解明する上で大きな前進といえる。また、新生児の輸血 CMV 感染症の存在が明らかにされたことは新生児医療への警報として重要である。

妊娠によって潜在 CMV がいかにして再活性化されるのか、その機構について細胞性免疫の低下による成績をえたことは学問的に大きな収穫である。

3. トキソプラズマ

わが国に普及している IHA および ILA 法が妊婦の不顕性感染を診断する方法としては適当でないことが示されたことは、現実問題として重要なことである。これらの検査法が誤用されないよう適切な指示が望まれる。

検査法手技講習会 (TORCH 症候群検査法講習会) 開催報告

感染症分科会に対して、妊婦感染症と児の先天感染症検査法の正しい手技と理解の普及の目的をもって、昭和56年度に別途予算措置され、講習会を下記のごとくに開催した。全国の大学医学部産婦人科、小児科教室、各県衛生研究所、各県検査技師会から多数の参加者を得て知識と手技の普及に貢献するところ大であった。

講習会名：TORCH 症候群検査法講習会

会 長：沼崎 義夫 (国立仙台病院)

期 日：昭和57年2月9日、10日、2日間、午前9時より午後5時まで

場 所：東京大学医科学研究所講堂

講習課題及び講師名：

風疹ウイルス：須藤 恒久 (秋田大・微生物教授)

サイトメガロウイルス：沼崎 義夫 (国立仙台病院・科長)、千葉 峻三 (礼医大・小児科・助教授)

トキソプラズマ：松本 慶蔵 (長崎大・熱研内科・教授)、亀井喜世子 (帝京大・寄生虫・講師)

ヘルペスウイルス：吉野亀三郎 (東大医科研・ウイルス・教授)、川名 尚 (東大・産婦科・助教授)

参加人員：136名

(参加対象：各大学産婦人科教室、各大学小児科学教室、各県衛生研究所、各県検査技師会)

以 上